





譽田の  
齋飯治  
池の名  
みくむり  
ふりあ  
これ  
軍神の  
霊  
い  
ま

御禮殿治師

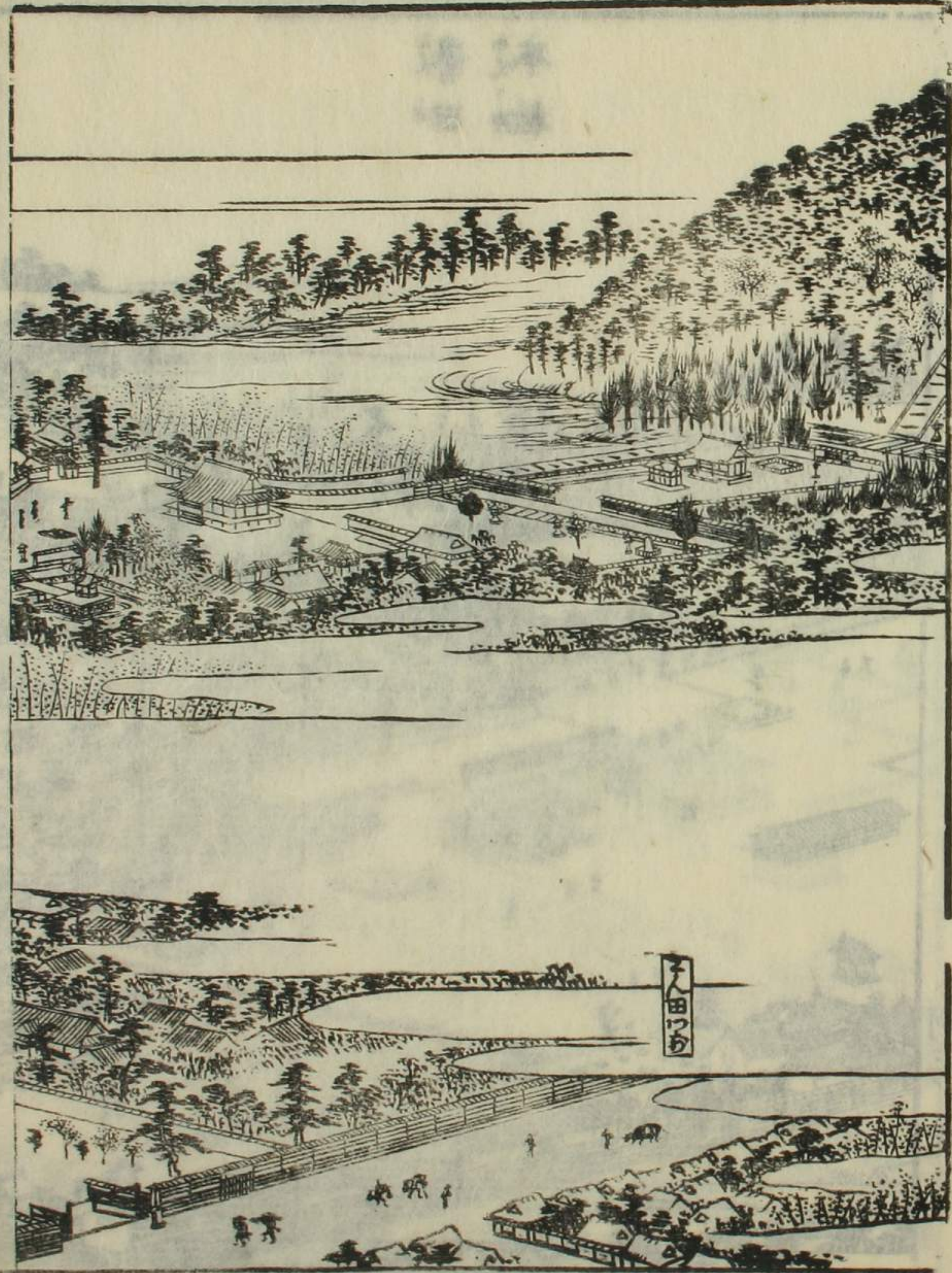
飛鳥假宮  
壺井八幡宮  
本堂  
観音堂  
安宿郡  
於賀美神社  
壺井権現  
鎮守  
大黒寺  
壺井水  
上社  
通法寺  
大黒石  
原法現舎

序敷山  
行者堂  
開山堂  
玉手山  
伯太姫神社  
天王祠  
名産菖蒲

博多川  
船之松  
鎮守  
壺見丘  
玉ノ井  
壙窩  
奥田忠一墓  
國分度寺

安福寺  
曼荼羅堂  
鐘樓  
伯太彦神社  
慶長戰場  
枯栖岳  
春日神祠  
原溪

壽世堂  
尾刈公廟  
郷瑞尾



應神天皇陵

廣神天皇陵

富宗社

大田

河三貳



本  
社  
敷  
田



河  
三  
三

古市郡

東南石川郡の界に隣りて西に丹波郡の界と隣り北に安富郡と隣り

長野山譽田八幡宮

譽田村小あり信濃十五郡の界に隣りて西に丹波郡の界と隣り北に安富郡と隣り

本社 祭神中央應神天皇 左神天孫 右神功皇后 一神神祇以上

権殿 北の方に 末社 南の方に 武内臣 白山権現 熊野権現

本地堂 護國寺中興を真言宗本尊阿彌陀佛を安置して定朝作

觀音堂 聖徳太子御作の十一面觀音 弘法大師

藥師堂 多寶塔址 大降堂址

阿彌陀堂 定朝作の阿彌陀佛を安置して

辨財天祠 東の方面の中流にあり

蛇文字石 弘法大師の御作の石に蛇文字の形あり

綾杉 龍池 弘法大師の御作の池にあり

石反橋 奥院にあり 其外儀の址 護摩堂の址

應神天皇陵 志紀郡津社と古市郡の界にあり

應神天皇の玉體公藏奉所あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

應神天皇の御廟あり

天皇大和國高市郡橿原輕島豐明宮小室居一移以御在位四格  
を奉聖壽百十歳以て同濟宇四格一奉の春二月十五日崩申上清遺詔  
により長野の山陵小藏なる以清父仲哀天皇清宇三韓より救百萬  
騎以て本朝へ攻め奉る 天皇五萬騎を引率りて穴戸國豐浦宮小劫死異  
賊退治の軍議あり三韓の大將塵輪より者黒雲小棄して日本入りて  
人民を殺さ奉救さる其時奉安倍高丸今丸成從く武内弓矢副將  
よりて自清弓矢取箭を射く射させ給ひ忽塵輪が首成射斬して亡ひ  
小あり其毒氣を體に蓄ありて清壽も危く皇妃神功皇后小勅して  
曰汝二將軍より異國に退討せよ一胎内小妊一いを子なれを降  
誕の後心く變祚小即べしと遺詔ありて同濟宇九年二月六日  
聖壽五十二歳にして筑紫橿原宮より崩終小皇后は育小僅く  
三韓退治の爲小救方の軍勢と卒く異邦小おとしら申上其時白髮の  
老翁名く皇后小清体はる門司國にまゐり香椎の邊に所小

着せ給ふの老翁申上る鹿島と云ふ安曇儀良也申上とのあり  
海中に久しく棲く案内公若る者かれをわらふ召て龍宮小  
所より干珠満珠名を顯を龍王小得ひこれとて三韓  
退討あらば勝利疑ひ無しと奉り皇后諾し一むいさるは儀良公  
何より召て召さる翁云は奉り海波と申舞樂を特小愛しより  
海上小舞臺と構え舞しめ終り儀良速小あるべし即供奉  
の人々に善樂公奏させ翁舞の久ば儀良身小棄して奉り久く  
海中小在りれを與ふを幡籠おどむしやお付て渾衣を袖あて  
顔公慮ひ危小のりて奉り其より儀良案内者よりて皇后を  
沖妹豊姫を使しより遣されり是を竜王よりかの兩顆公持事  
られりる皇后則四十八艘の軍船を儀して異域小渡り欲に迫り  
漕寄させまが干珠公海上へ投入しを漫々く瀬水は變珠  
に入る陸路の女一三韓の軍勢何れ思ふもぬく悉知とて

倭船を因熟く切てのふ其間小敵船を棄ひおく相圖瓜と似く  
満珠公海上へ投入ゆ人を潮水初小百倍して四方より涌出れこ三  
韓の軍勢潰さぬ溺死しし異國瓜安く威しゆをの國日本  
國小遊ひく永く幸々調貢派奉りたり昂老翁と位名神  
りく地神五代鷓鴣草昔不合尊の沛率之又儀良也中の老陸  
少て麻務明神大和少く春日神即武甕槌令之皇后筑紫に  
沛凱陣まじり十二月四日幸卯日小 應神天皇降誕しゆ小故小  
今小於く卯日瓜縁日と似 仲哀天皇の嫡后大仲姫の皇子麿坂  
思熊の二王子皇后瓜獄さん中侍のけら内武内臣を子と抱きまけ  
南海より紀伊國小到りての二王子を皇后やちくや威し先帝中  
沛遺勅小よりく沛率二十一兼と申小即位し沛治世六十九年  
聖妻一百と申れ大和國高市郡磐余稚櫻宮少く崩し中皇子ハ  
四葉にしく皇太子小立せ給ひ沛率七十一兼と申小即位小体り

應神天皇也申す 仲哀率弟四皇子之治世四十一年妃八人男女の  
沛子十九人沛代小初く文字りり衣裳を織縫志ける幸始りや  
野島豊明宮少く為りい遂小尚山小藏しをる殿后欽明帝沛宮  
二十年二月十五日行幸ありて一七日泰菟し給小即位八幡宮神  
倭現し天皇小能宣まじり聖徳太子十六兼の沛時守屋造治  
の為七日泰菟し重験ありり朝敵瓜亡し給小役小角も亦入唐  
史新報し文武率大寶元年四月八日より一七日泰菟あれを  
其満びるお小崑崙の玉も磨ざれを珠小あは流蓬萊の菜も掌  
さばり益ありし示現あり又信正仍基もく小菟もて 元菟率乃  
勅をうけく四十九院を成就しゆ人又弘法大師も天長三年四月十日  
吉布郷西林寺より一夏の間く小流して三塞の觀念瓜ありし一理  
坐禪の扉もゆかんより雙方小僧老伴ありて多小錫杖をつれ  
て迦陵の沛声鮮小大師に告く曰



歸命金剛秘密佛 靈智令法久住世

為度末世諸衆生 世間出世利群生

誓首八幡大菩薩 示現神通度衆生

斷除十惡為十善 覆護衆生能與樂

天長五年天下大旱魃也淳和帝の詔を奉りて六月朔日より一七日

祈禱す所法し終ふ忍若女龍王八大竜神現して首兩影し

又仁和二年四月十日菅原相道明寺小部より入村安樂寺小部あり

は神童を人社禮より現れ寶劍を授けり今統元安樂寺小部あり

也形人其後後冷泉院清字示現ありて清廟前の宮殿を改先南へ

去事き所許ありて叢室小清修補し終ひ大正天皇藤原岩の宮殿

とあり又多葉十二月吉日とありて諸の山陵へ河前の宮幣

多葉年延喜式公事根原等小見えり右大將頼朝卿

建久七年小社頭伽藍新小造營ありて清神領方四十町也

定あり北條九代足利十五代相續く頼朝の舊例小部より清神領と

後冷泉院の清宸翰あり縁起を永享五年孟夏廿日征夷大

將軍元大匠兼右近衛大將足利義教公の墨蹟ありて画と土佐

右監光信あり已上社傳或の愚童訓星霜移りて東海の三ノ木栗田

やうり清神領あり天正の以平信長朝臣四十町の神領と悉く没収せり

豊文閣の清時貳百石の喜捨あり其後將軍家國初の清時山奉貢

等清寄附あり委い社説不見之れいあふ畧しぬ今の境水方五町小代々

當社四季の神事あり三月十四日月形をうけく曲物ふあを入道板小同公の年中の

水斗何合と知る是社宣の役なり又二月初卯日種々の神供を捧ぐ作法あり

檀輦四月八日宮の例系はく車樂二輛ありとふゆを花をのり當社社説と

隔年あり又三月廿五日儀樂ありを主難方南あり

放生會例年八月八日神式始り十四日寅の上刻小神樂を真院へ神

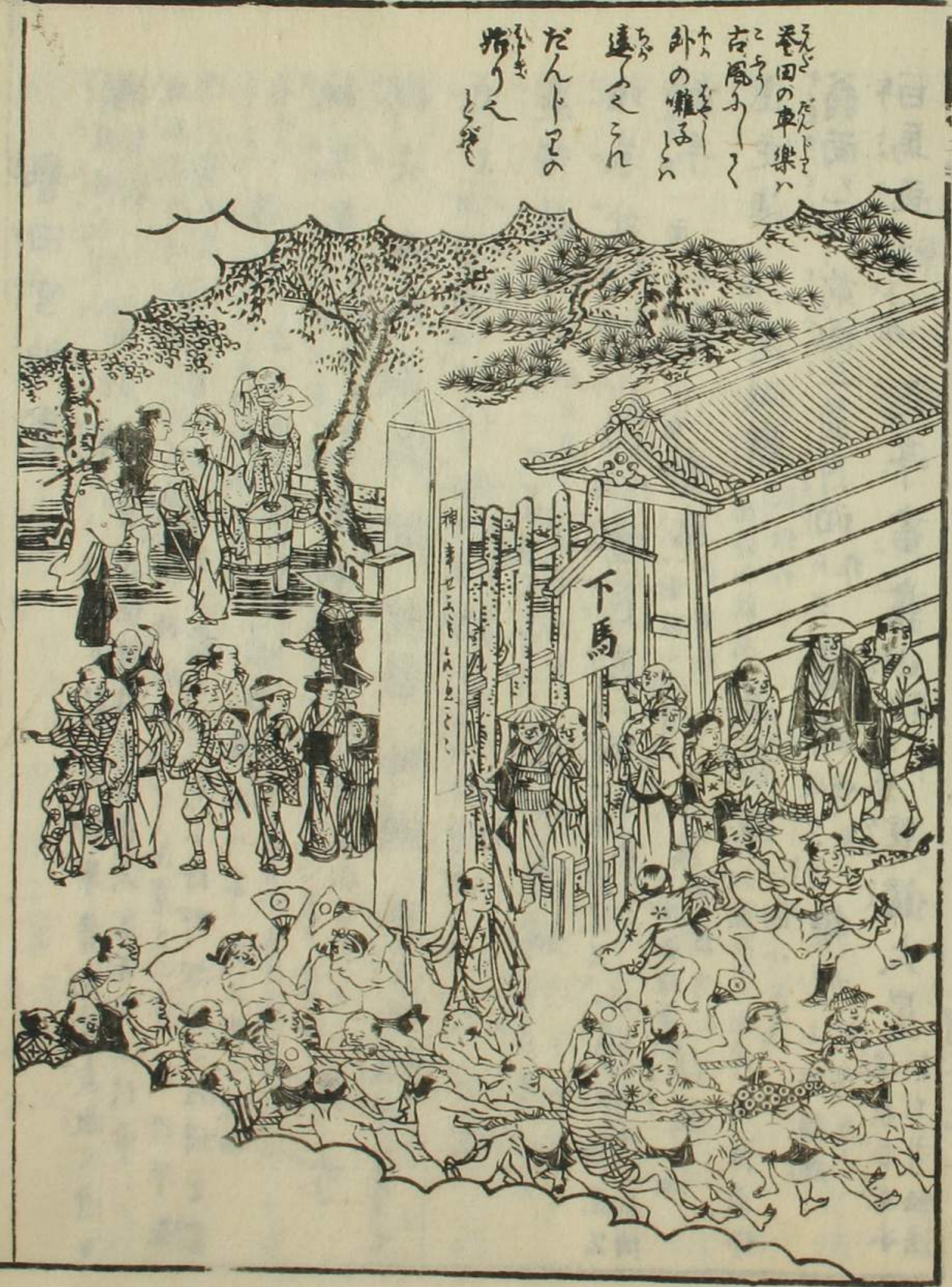
聖十五日午外本社不遷清し守神樂供奉をいりて神祕の秘

式社人の守護し神子と神樂供奉をいりて神祕の秘

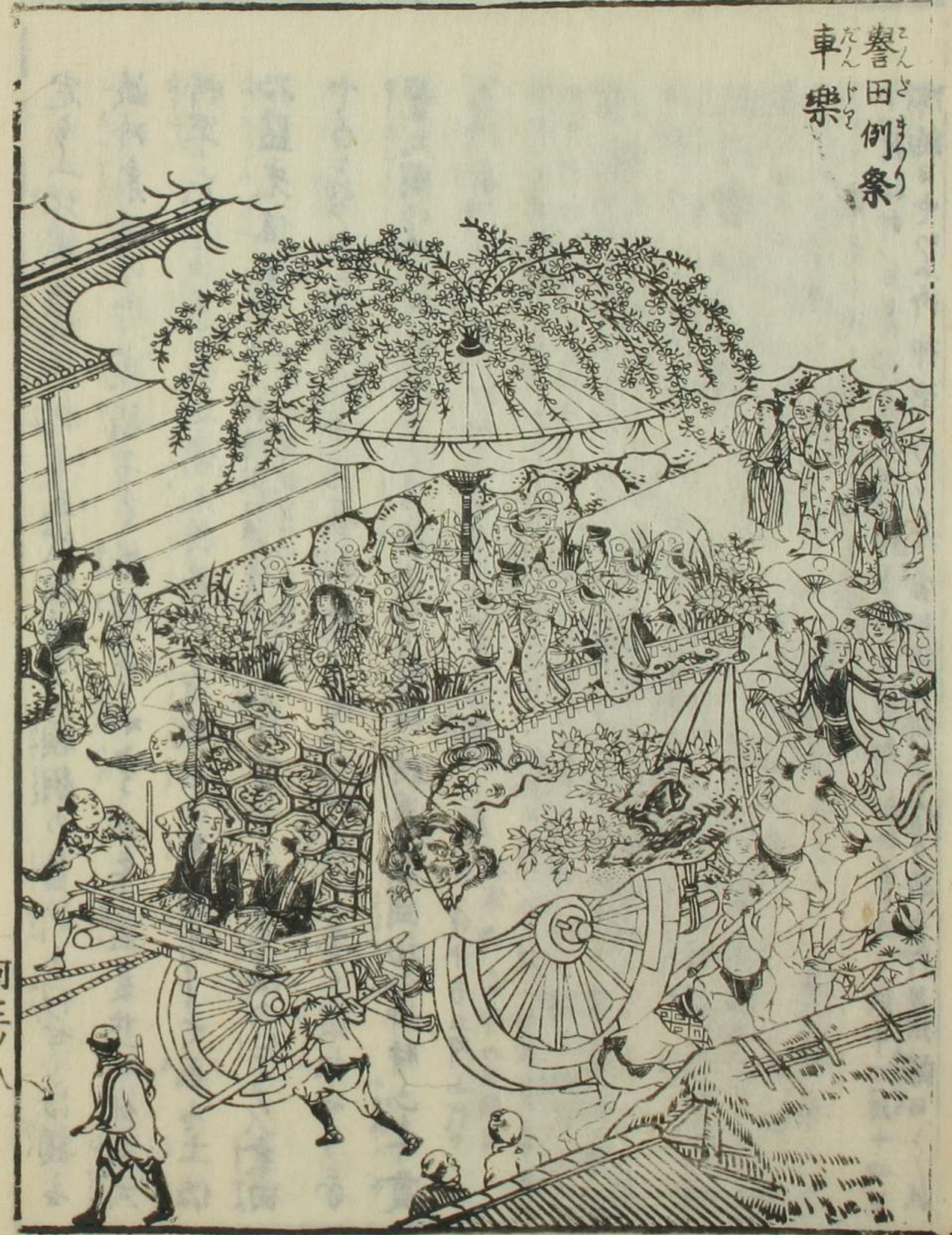
十一月初卯日宵宮より清湯を捧ぐ是神祕の祭式と伝十二月初十四日

清神領日中り清神事あり産舎弘務の羽を捧ぐ故小部日弘鑑日と伝

登田の車樂ハ  
 古風ありて  
 外の囃子ハ  
 遠くこれ  
 だんトその  
 始り  
 と  
 なる



登田の車樂  
 祭例



河三八八

譽田宮神寶

額後冷泉院當社傳記病書足利六代將軍普光院義教之僧

後西院時因裏小於倉重和度台命と當り別毫小將野探幽小法傳を書

所上覽の後板倉重和度台命と當り別毫小將野探幽小法傳を書

先鳳輦右大將賴朝公寄進長刀賴朝公寄進三條小紙治

神馬鞍賴朝公寄進鈎鏡已上四持建久七年當社御弓

御矢御劍御鉞琴琵琶神鏡瓶子神器以上佳吉とり傳うて

太刀栗田口藤馬允利劍大原納曾利面聖德太子大老鼓

庭幡龍頭足利十代義植公寄附書狀數通豐臣秀吉公

堆朱盆秀忠公寄附雪月花一軸大樹家光公山姥面家光公

散手一面二舞二面貴德一面俱小信貴天童一面勤進僧陵王一面

退走德一面還城樂一面俱小法橋退宿德四面內三面律師淨真作

翁面乙御前面三箇月面日先驚繪帝皇鐘旭元朝類釋

百馬画趙子昂花亭書畫明相國臺軍鑑大星漢家昇風本

神功皇后尊影酒井軍人應神天皇法德住吉太刀永井伊賀守大の朝と

五色鏡水晶三角王硯一面亨明花生一瓶雪青磁香爐

五卷大橋哥儂歌專道親王大自在王菩薩影空海自佛全利

重政筆青色一粒八組相養五結三結獨結私法大師間浮檀金如意輪八寸

般若經弘法緝紙金泥法華經天滿天神愛深明王弘法大師

三尊種子曼荼羅中持維鐵物不動明王智證大師兩界曼荼羅

理源大師釋迦羅漢宋朝僧涅槃像古法眼弘法大師影真如觀王

納袈沙衣高屋城主島山尾張守寄進右の外神寶多くとくとく小塔と又傳來の神書寶庫にありは信

結して他見を免さして奥院寶器

大自在王菩薩尊影聖德老子佛舍利一粒釋尊十六善神弘法大師

興正菩薩影自作十六羅漢住僧教也書翰二通尊氏公秀吉公

長峰八幡宮 養田本社より南二町あり又和々の沖 風輦瓜あり  
は境内方々所の松林々々中御駒塚 長峰の西ありむの神馬乃  
日本紀云 馬場あり今廢りて馬場町と云ふ

雄 聖天皇九年秋七月河内國言飛鳥戸郡人書首加龍之妻也

伯 孫聞女産兒往賀其家而月夜還於蓬蘽相逸

發 伯孫就視而赤駿者其馬異體蓬生特相欲

仍 換馬相辭取別伯孫得駿甚歡驟而入廐解

之 鞍還覓馬之其乃見赤駿在土馬之間而代

置 所換馬 御神冢 本社より長の方あり傳云當宗神社

市 經子 東門の傍小 栗塚山 二塚山の北に

二 塚山 あり 栗塚山 二塚山の北に

中 野 不動石 傳ふあり 小野道風故居 不動石の

神 功皇后八尾瑞夫依 放生川 奥院五橋の

後 冷泉院行宮址 今新町 善法寺址 放生川の

後 冷泉院行宮址 今新町 善法寺址 放生川の

後 冷泉院行宮址 今新町 善法寺址 放生川の

後 冷泉院行宮址 今新町 善法寺址 放生川の

長野山 一名崇伏山 養田本社より南二町あり又和々の沖 風輦瓜あり

譽田壘 養田村の北にあり 養田の北にあり

伊岐宮 養田の北にあり 養田の北にあり

景行紀曰 日本武尊崩伊勢國詔葬於能褒野陵時

村 倭宮北為白鳥飛去遺使求其駐處白鳥停于

上 天徒葬衣冠云 故號三陵曰白鳥陵然遂高觀

泉州大鳥神社流記曰 稱大鳥於伊岐宮石津者孝德

天 皇造伊岐宮之日其石從讚岐國運置此津

仍 名則當知古昔 營構宏壯麗也

向原山西琳寺 古市村あり初古向原寺と云後改て西琳寺と云

新集 けり相むるのそよけ梅の花みのり花の種りとそん系 後村上院

本尊釋迦佛 百済國聖明王持赤梅檀香木天竺毘首羯磨天の根長

弘法大師の 舳先觀音 圓淨極金十一面觀音長三尺三寸百佛

船 舳先觀音 圓淨極金十一面觀音長三尺三寸百佛

海の人祈念を其罪を救つて人半靈驗ありと云

地藏尊

本堂小安蓋長八尺五寸四分

觀音堂

本堂の東にあり安阿蘇の地正觀音安ん

塔礎

本堂の東にあり真柱の古礎小割を記す

明星水

觀音堂の良ありり 龍池 南の方あり侍小

欽明天皇十三年冬十月百濟國聖明王揮迦の金像幡蓋

經論若干紙將來して帝に獻して曰夫佛法と申ハ諸法を

中小最殊勝の道あり周公孔子も奧意悟る幸能く皆群生

と利して功德無量之初天皇より知く震且を流通二韓も亦

崇仰 天皇されん故國有て即歡喜踊躍如是微妙の法を朕

いまも若く聞け侍臣獲我大臣福因宿祿奏達して云今西蕃

諸邦みかこま公禮一我朝獨尊これ小背ん我帝小同意

なれも其時物部大連尾與中臣連孫子議奏して曰それ我

人代小遠んでも一千有餘年異國の法を修せたりて國家清平

たる事萬國中勝まり今更西蕃の神公を祭りたり忍く

我國神の怒ありんを遮り奏達しこれを天皇佛像と福因宿祿

賜ふ獲我大臣祈悦して小墾田家小安蓋其後向原の敏を寺に

那して向原寺と号し 年累積りて 聖武帝の御宇西大

寺の監真和尚より公修補し又弘法大師もくく止棲し修

其後建長六年の春又西大寺興正菩薩再興して律宗の法則を

かいつり昔日古封境庶大なりて七堂伽藍僧坊魏々寺在卅六町

あり舊圖小入りり中古騷擾の患小罹り今の如くは移令中

形寺小弘安四年の文政官符あり又興國中此國宣教章弘

安應永年間將家乃預文文永中の流記教通藏む其外什寶

教種ありり小畧見 寺説元亨釋書小

玉碗 蓋山の什寶之巨四寸深サ式寸八歩巡り一面小星の如く

連系玉性分ありり今より八十年前洪武の時

親聞天皇陵の土砂崩れ落く其中より朱など多く出てこれより其の如く其地を村内田中何某や一人農家の持地なり當り小蔵心

太政官有正

大隆官牒河内國西琳寺

已下全文省畧採要文

一應停止四至内殺生事

四至

東限飛鳥庄

依為太子御廟四至内  
下官符被止殺生

南限岐子庄

依為山門西塔  
往代禁断殺生

西限尺度庄

依為根本法花堂領  
往代禁断殺生

北限譽田陵

依為大菩薩聖廟  
下官符被止殺生

上文畧

仁祠也草創年舊先於天王寺三十箇廻  
花構猶新不侵風火水七百餘歲古今奇瑞不

河三ノ十二

可勝計其中女人入金堂之時地忽破裂盜賊  
偷銅像之夜天變白晝勝絕之趣翰墨難摹  
律成群三衣一鉢之支維之行業積年天長地  
久之勤無怠加之西多青塚皆為上古帝后之  
陵廟南有靈岨則留聖德之芳骨旁見地勢不  
便殺戮矧乎寺邊二里之殺生者聖主累代之  
禁遏哉因茲且任上宮之記文依知識之誘引  
士民同心雖停殺生權門之徒都不釵用或無  
諸廟而為狩獵之場或上一河而為釣漁之處  
無慚之至何不炳誠望請聖斷永傳止四至内  
殺生之旨被下者弥仰聖化奉祈寶祚者  
止一行大納言源朝臣定實宣奉勅依請者

弘安四年五月廿六日

弘安者鎌倉將軍惟康親王之時也全非大内裏之時  
此外二箇條之官符二通累之同年號也

惠尔我市

又會我出古市村のハ會我川のあり

頭宗紀曰

吾傳者皇酒餅香市不直買持鞋膠

花櫻白

中ふもまにのいふ花枝もとりて了れおき

惠我川

石川の一名之石川郡より流る古市小至るく惠我川なり

安閑天皇陵

古市の南高屋をあり古市高屋在陵を稱れ 天皇の妹神木

安閑紀曰

天皇長子也母曰日天子皇為男大

春日山田皇墓

安閑帝陵の南小隣ふ古市高屋墓を稱れは皇女を

山田皇

女及于河内舊市高屋皇陵以皇是

高屋神社

古市古屋浦邑にあり延喜式に今八幡山也

高屋古城

石依の不動宮安を傳云應永年中高屋山義深初て

高屋神社

藏王持現祠あり

高屋神社

藏王持現祠あり

仁記不詳あり天正中島尾張守高政の居城なり

久秀に於て城を築く明徳年中其子基國南朝の時

寶壽寺

西浦村にあり禪宗黃檗派本寺阿弥陀佛又毘沙門の

清寧天皇陵

日村にあり坂門原に在り其頃白髮帝と稱を

清寧記曰

天皇生而白髮長而愛民中五年春正月天

白鳥

皇崩冬十一月葬于河内坂門原

利雁神社

西坂田村にあり延喜式に出今王宮に在り

戸前池

七月に池を修築す廣く三百畝

井德院

又聖德王清徳の毘沙門天を長八寸鎮守牛頭天皇

碓井

境内にあり其基大土也

碓井

境内にあり其基大土也

碓井

境内にあり其基大土也

碓井

境内にあり其基大土也



本堂

尾崎寺と  
弱入

水手

切りの実地  
あつりからうふ恒の  
友しやうふ  
おくほくしき

新島

駒谷  
金剛輪寺



百三十一

百三十二

河三十四





和撰ふ山城下らるる僧道不遊りて古蹟を破らぬは其の誠なり  
河内河内列の國を以て識者なり

夫此山寺と古刹ありて中須兵衛の哭此後ハ僅の丈室維摩  
可居小比一多十笏が得り常小幽多雲を帯て禪窟を  
せがり山水月小和して僧厨小入寂莫する鐘磬の音茶候  
以遊く三業を貫れ顯密の日ツケ長閑ありて十住心は花を  
匂ひ鮮くひり一ち子厥戸驛の駒小御し中四海を光り  
鬼修小比地塔雲漢くゆく一立界分是靈域こそ一  
夢中て梵園瓜削し輝く十六山安養院とら蓋此やわら  
茶王后妃の陵墓累々ゆして四々双二り周是山跡と江時の  
人と迫り飛鳥の津寺とも堂たのめや年暮けを果く  
後醍醐帝此御宇世上後さされ天下清平御務乃た後承  
宸御製松藏苑の小南朝 後村上院より金剛輪寺中軌し  
以ハ於津國菅原瓜雲らる繪有國宣も結皇二條為明卿の

秋書もありりるる為乃上人の肖像餘外什寶奇物教く傳ふ  
寺前より藤永子墓清が絶言此古墳棟正成塔あり風景を東  
ふたよふ鳥飛鳥里追く前ふと淵ハ瀬ハあり飛鳥川乃年の暇  
登くまきと暮る曙やうく小嶺の松の影ハ朝の梅白ハ若花初書  
流るる石川の流涼しく夏まよはせ飛鳥入景乃陰ありて  
郭公の一聲が曉の月小待偏ハ又秋の野原と風を凜々  
雲もまんくや鳴つて夕霧空く萩咲女郎花みさぐれ中  
花さうと先ぬさりしれ書とふもあられぬの若源く楯中  
穴小よりて観念の便ありぬ一書ありはかど景空のさる實小唐乃  
沈佳期が咏しし紅樓院もいつ屋とこのり  
棟正成塔 院前小あり云光寺中鐺ハは瑞雲造立の刻 支絛相田に遠  
一橋と皆達ハ津寺内サの系路をよめる結と判官庵中陰ハ早  
今やおぬれ就支於貴寺ハ碑お建中為名悪息沙活中ハ得止



十六山家藏之品々

日谷稚宮之碑

堅長尺七寸 横八寸

伊波別命

腹 瑞齒別天皇

袁登賣命

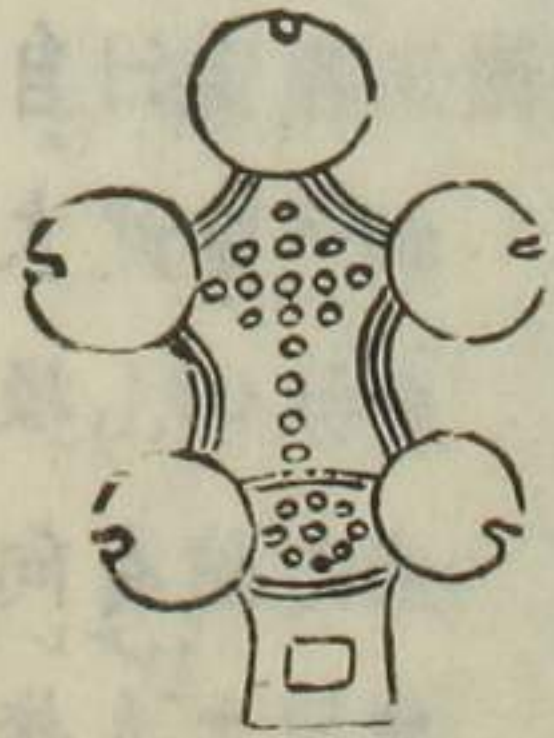
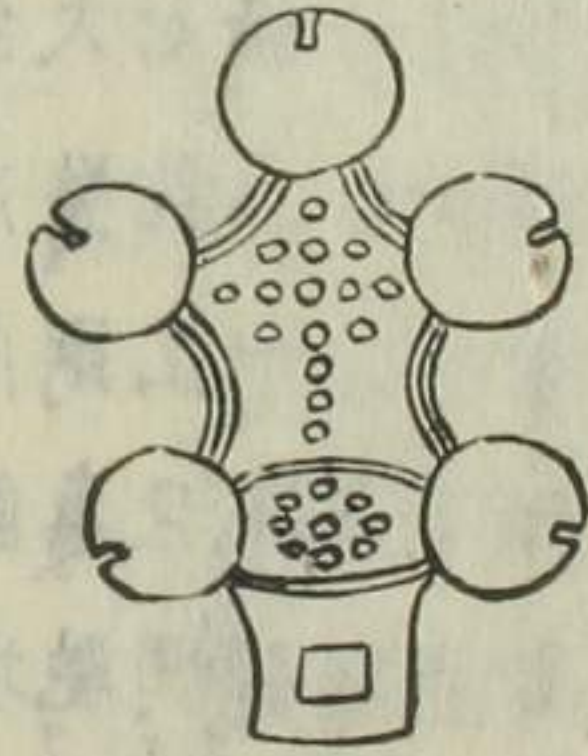
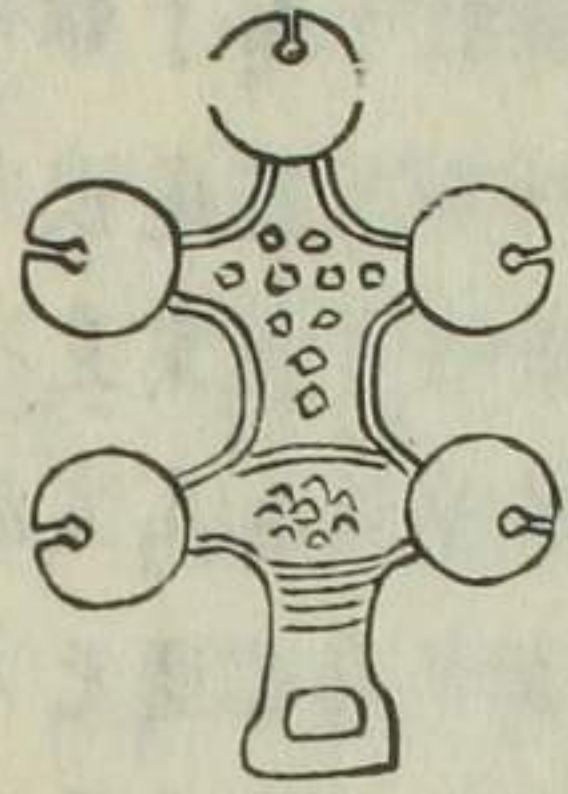
背

稚日谷稚宮者

反正天皇一夜

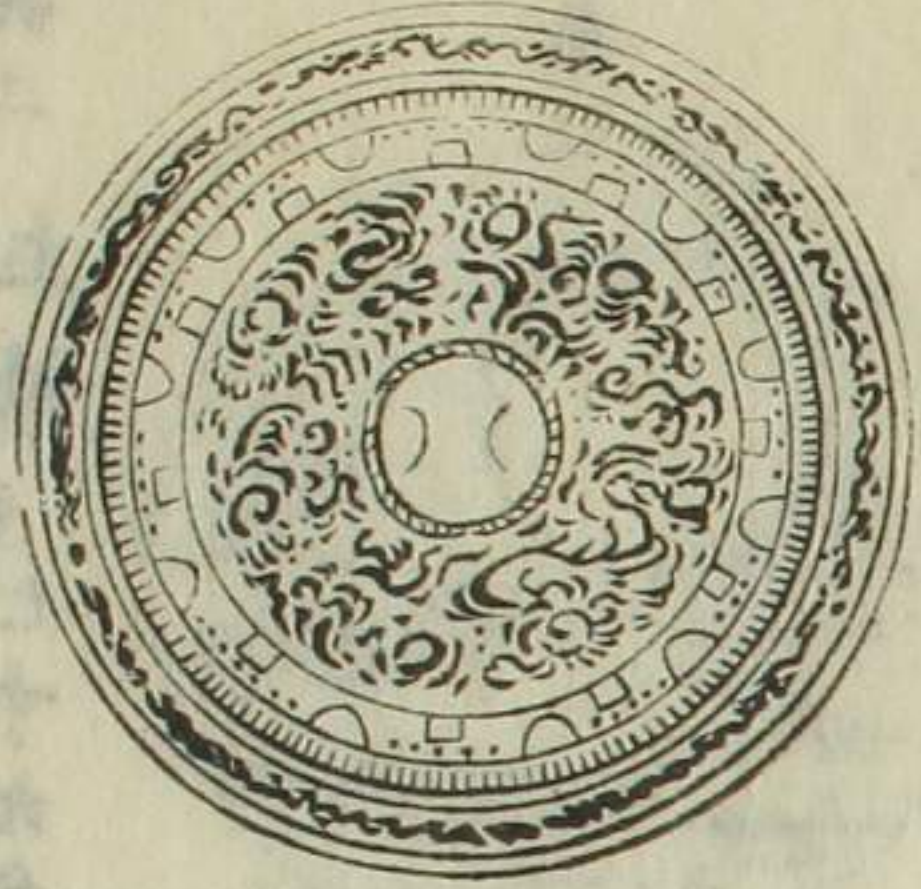
被禊之旧蹟也

古鈴之圖



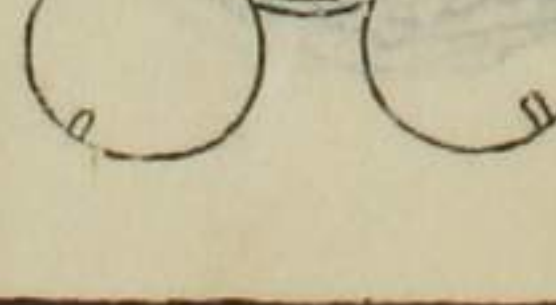
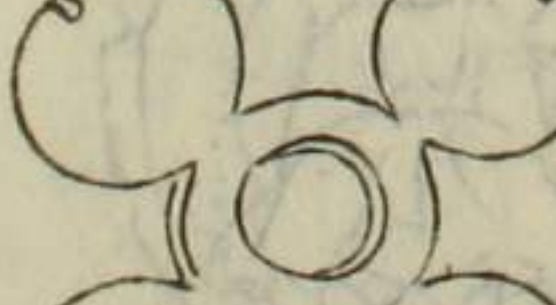
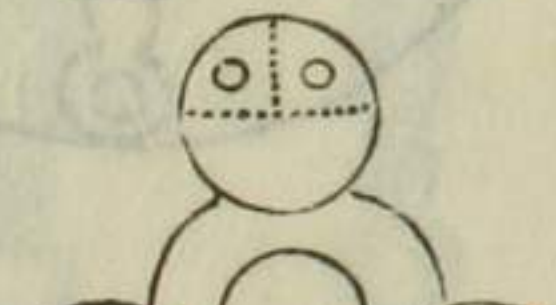
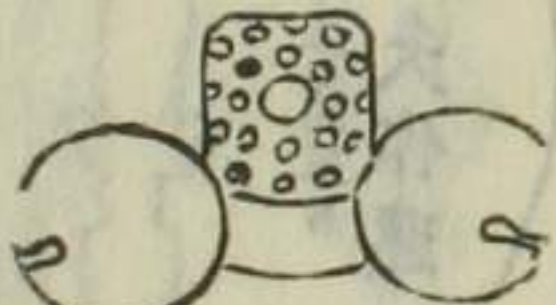
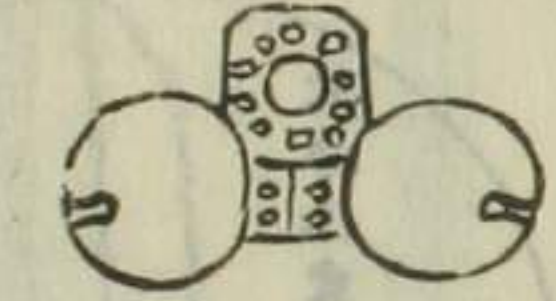
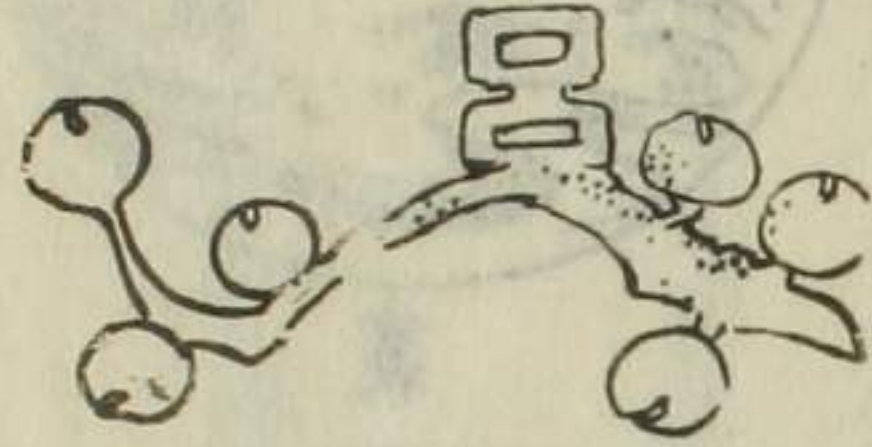
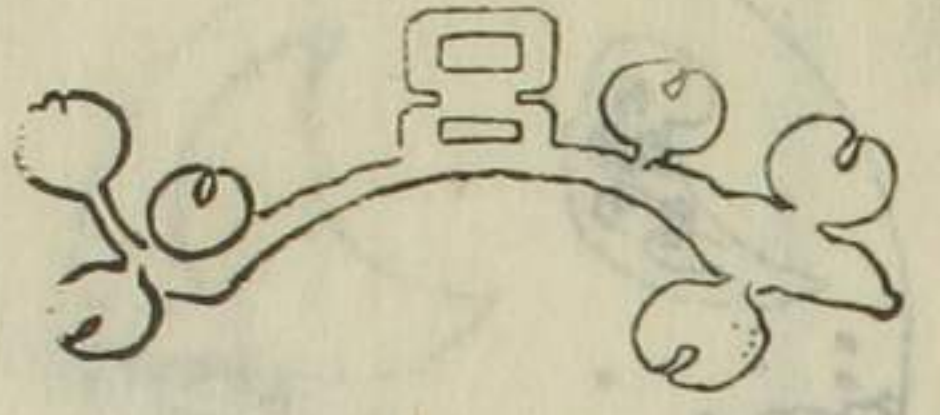
河三十八

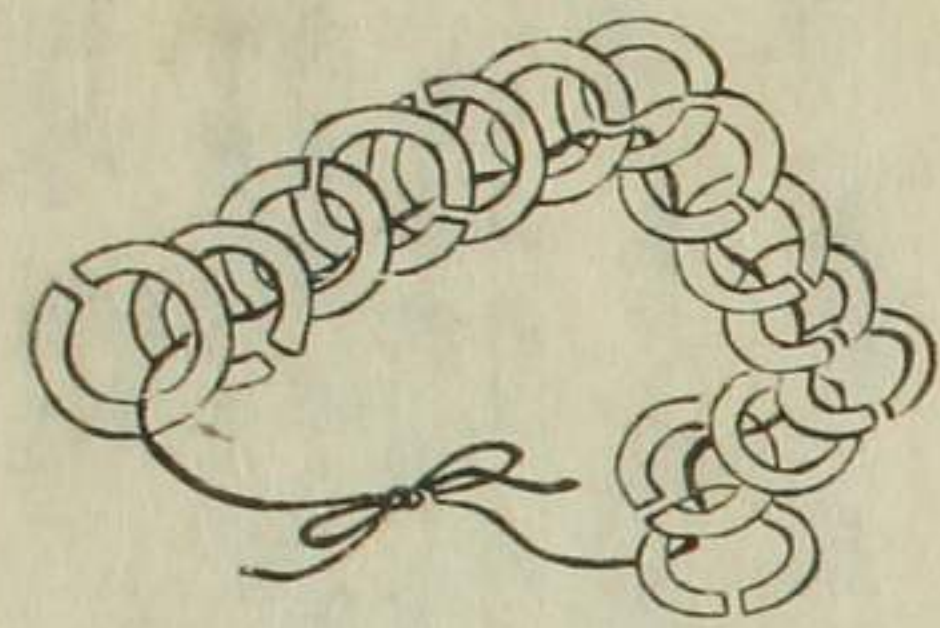
古鏡



高二尺二寸  
横三尺八寸

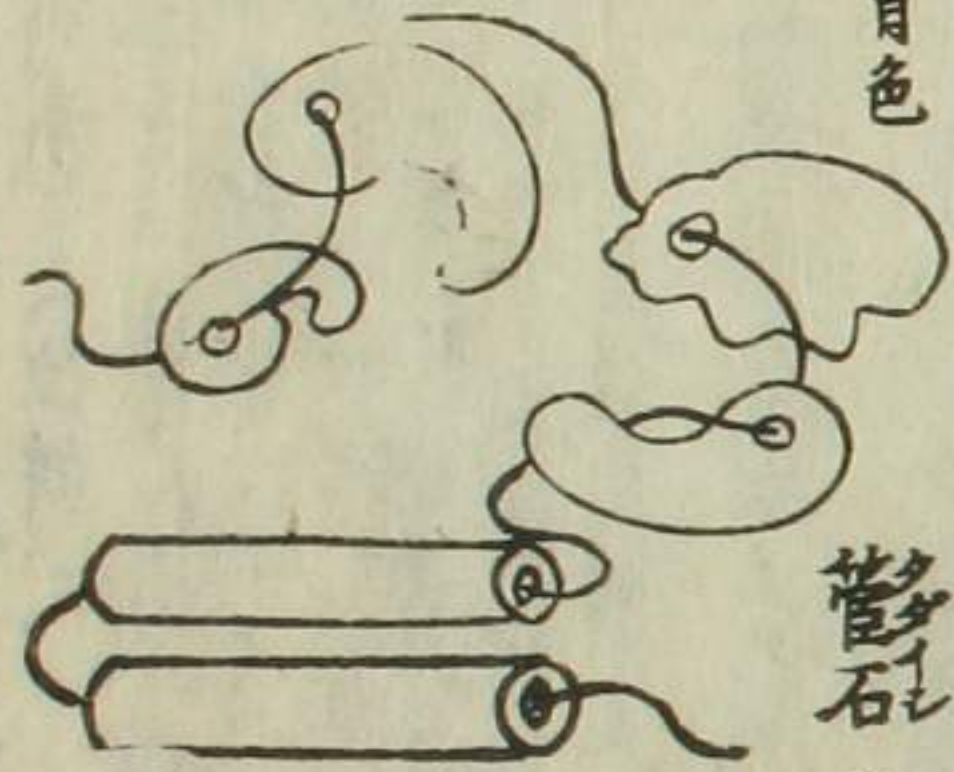
碑狀共自然石也





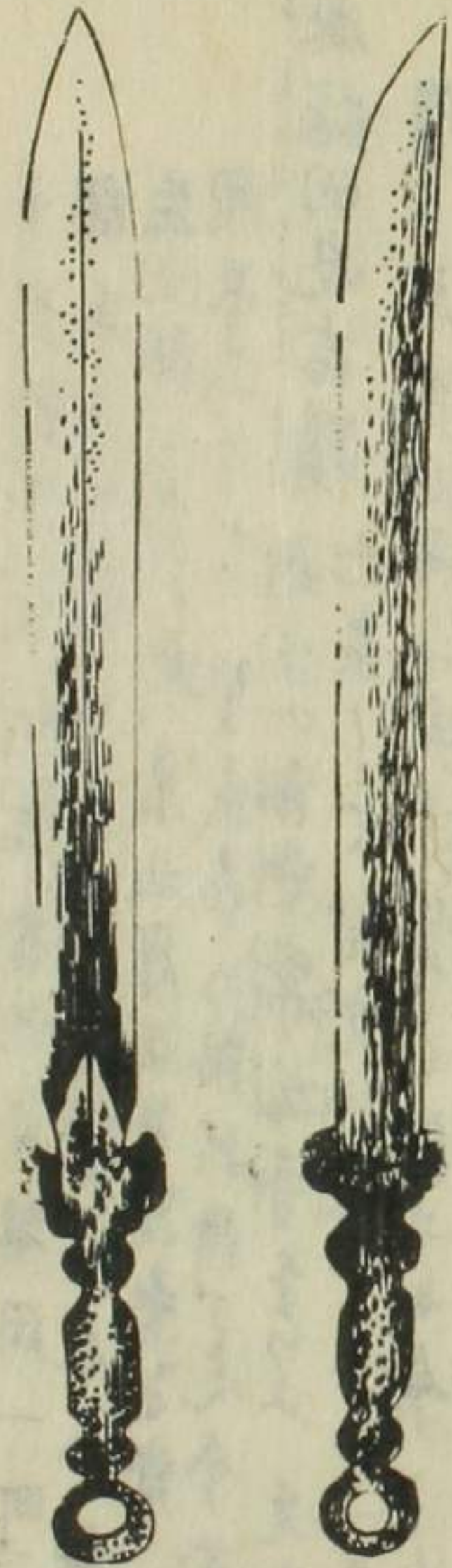
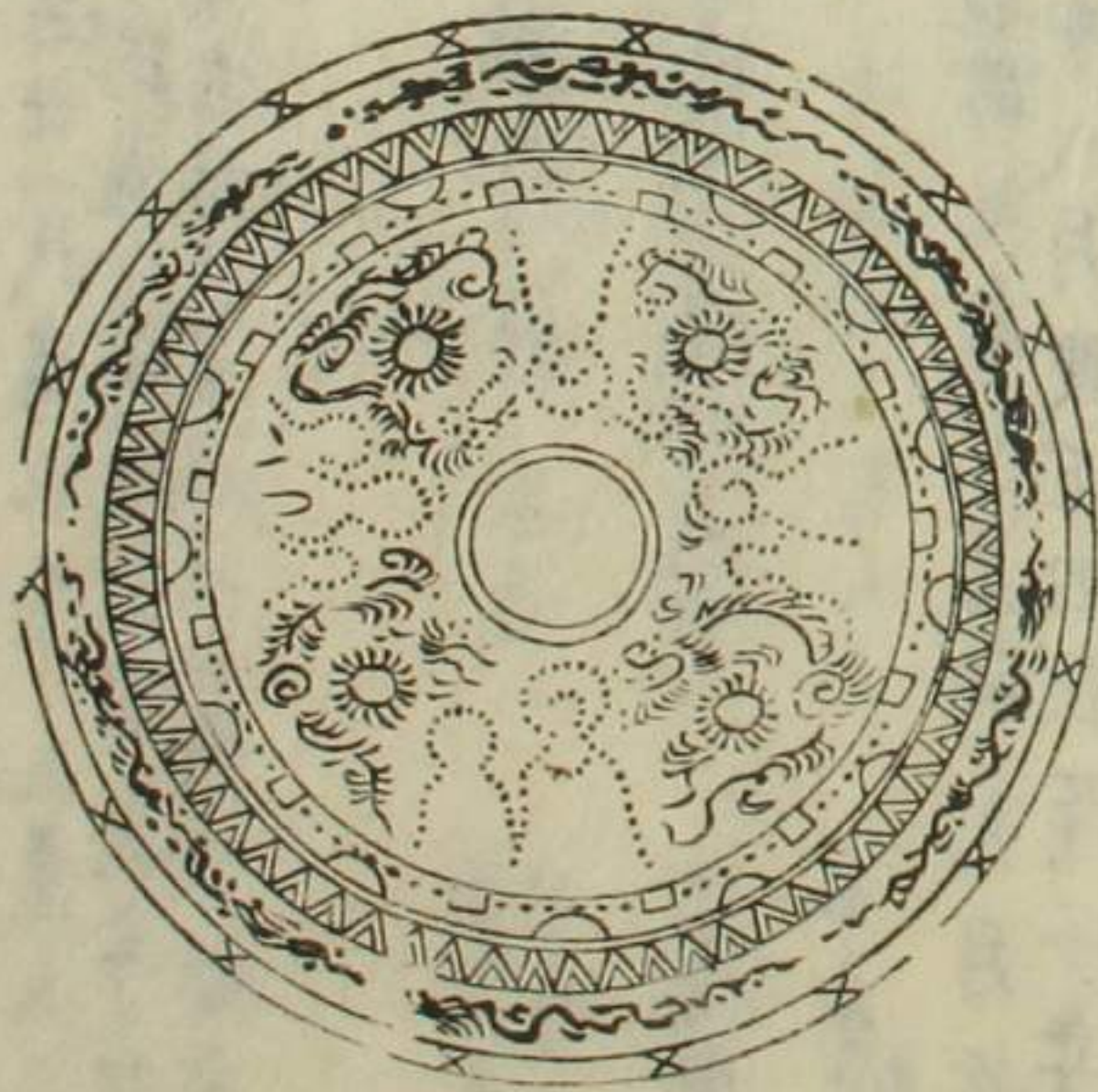
金銀十五个 徑七八分

青色

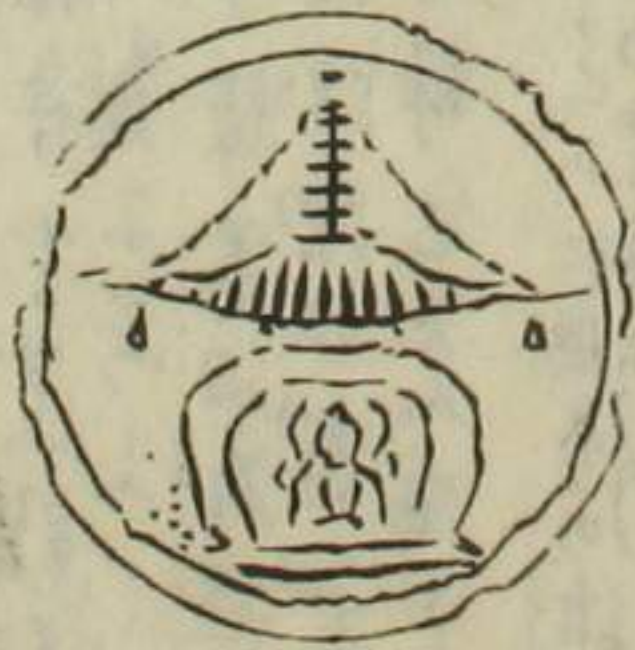


銀玉七个 翡翠七个

古鏡二面有 長八寸



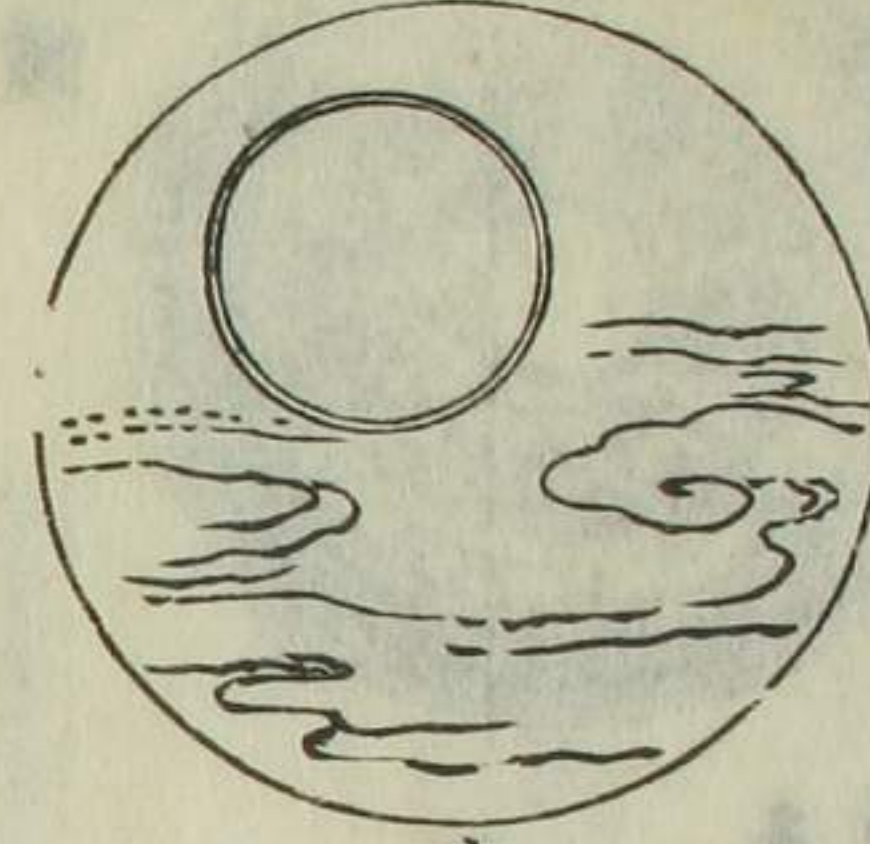
劔 各長壹尺七寸六分半



其二 土鏡 徑七寸九分

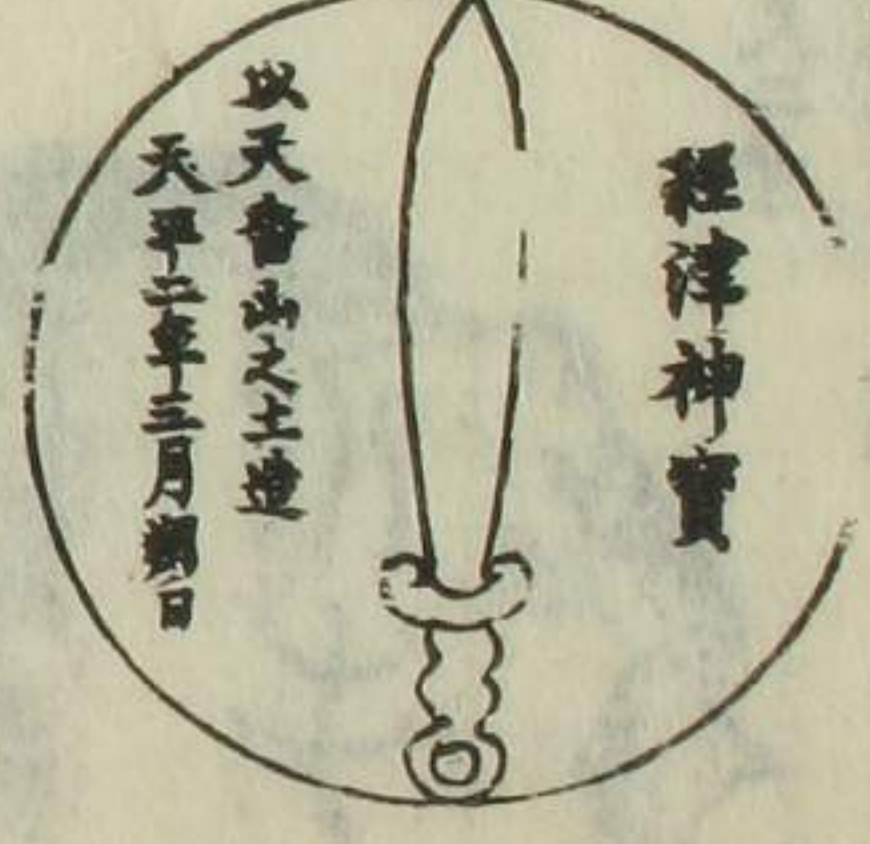
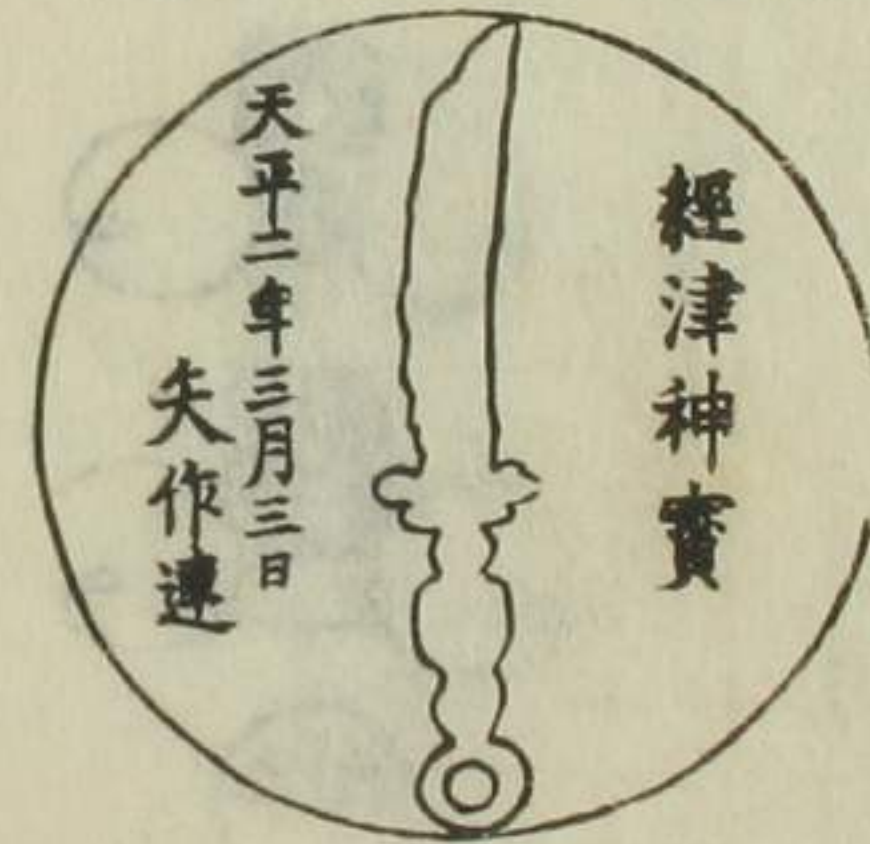
表

表



裏

裏



布目有

古瓦四品



飛鳥山 飛鳥村の上方あり霞中記ふ

飛鳥川 飛鳥二上山より流る飛鳥川の源を經く石川入は河内丹

飛鳥神社 飛鳥山に神社遷飛鳥宮の古跡飛鳥川の和舟十餘首

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

飛鳥村の古跡 飛鳥村の古跡を經く石川入は河内丹

河三ノ王

皇弟水齒別命既平難波之亂上幸於倭之時  
殺大坂山日以為人曾婆誦理雖有大功既  
其信還惶其情故欲報其功而誅其身乃詔曾  
婆訶理今日留此可先賞汝明日上幸拜為豐樂  
宮於山日賜皇人以此大臣位令百官拜為豐樂  
之詔以大歡宴畢令勇士聲罪斬之取明日上幸  
謂飛鳥也

大郡於賀美神社 大黒村あり延喜式石川那子屬を今山王と稱れ

大黒寺 日村あり天童山中群を孫宗曹相

本尊大黒天 役行者他長六寸許

法を授王位 役行者他長六寸許

群一しは石一日ふ一神の流中安ん門前と大黒坂と

と石護に河内國大黒石を出り

と石護に河内國大黒石を出り

と石護に河内國大黒石を出り

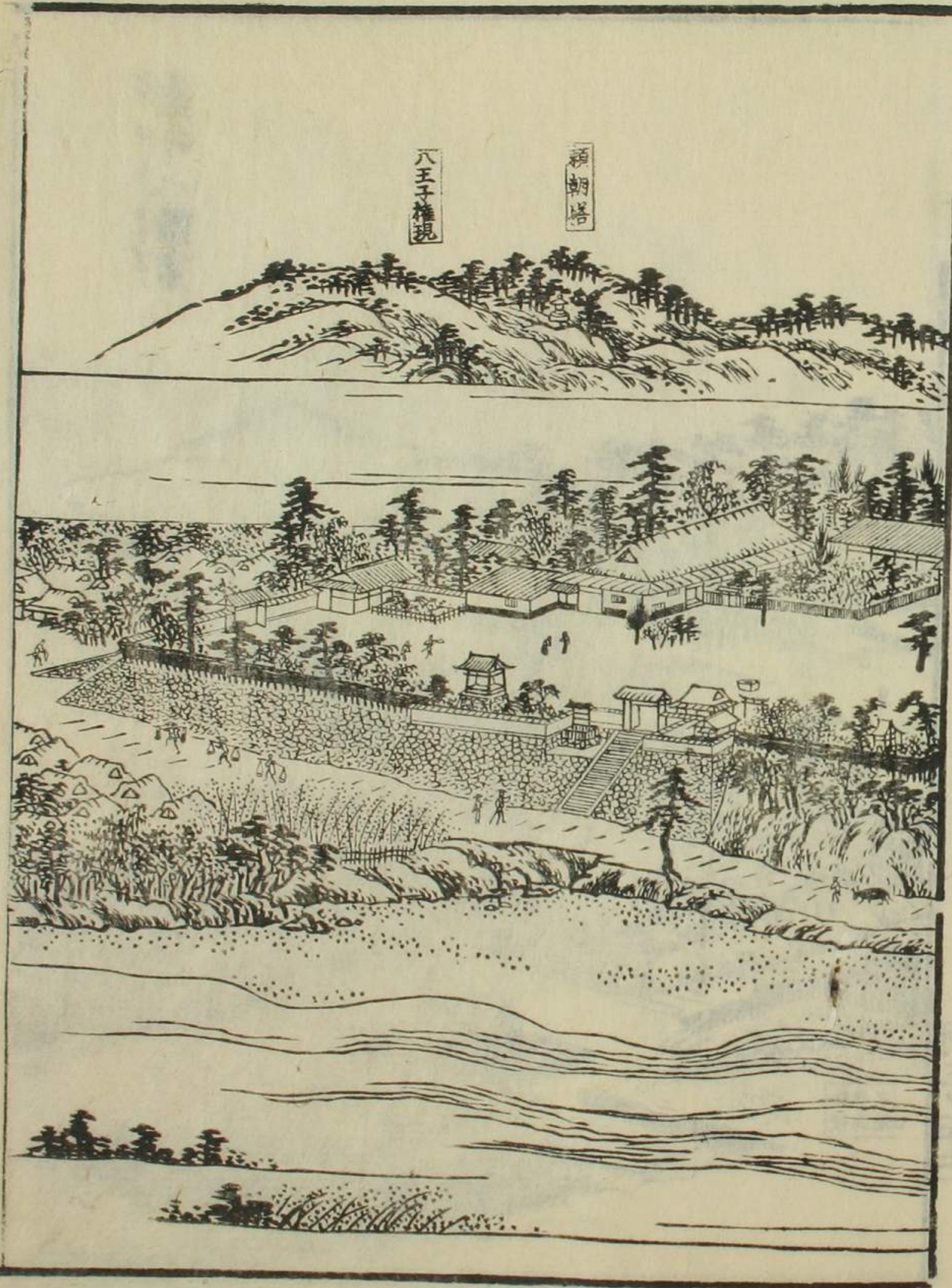
と石護に河内國大黒石を出り

と石護に河内國大黒石を出り

と石護に河内國大黒石を出り

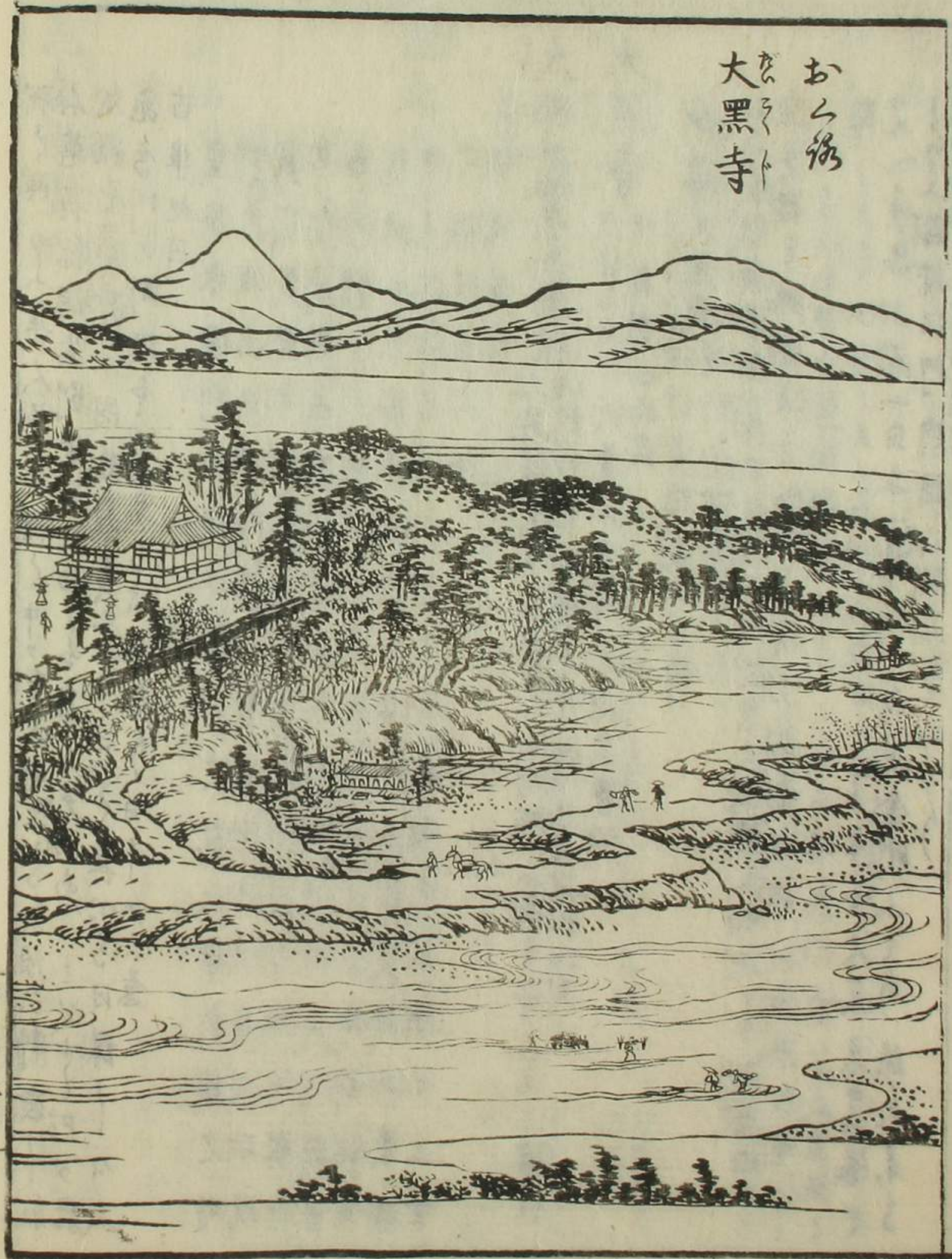
と石護に河内國大黒石を出り

と石護に河内國大黒石を出り



八王子権現

稲朝塔



おん後  
大黒寺



権現

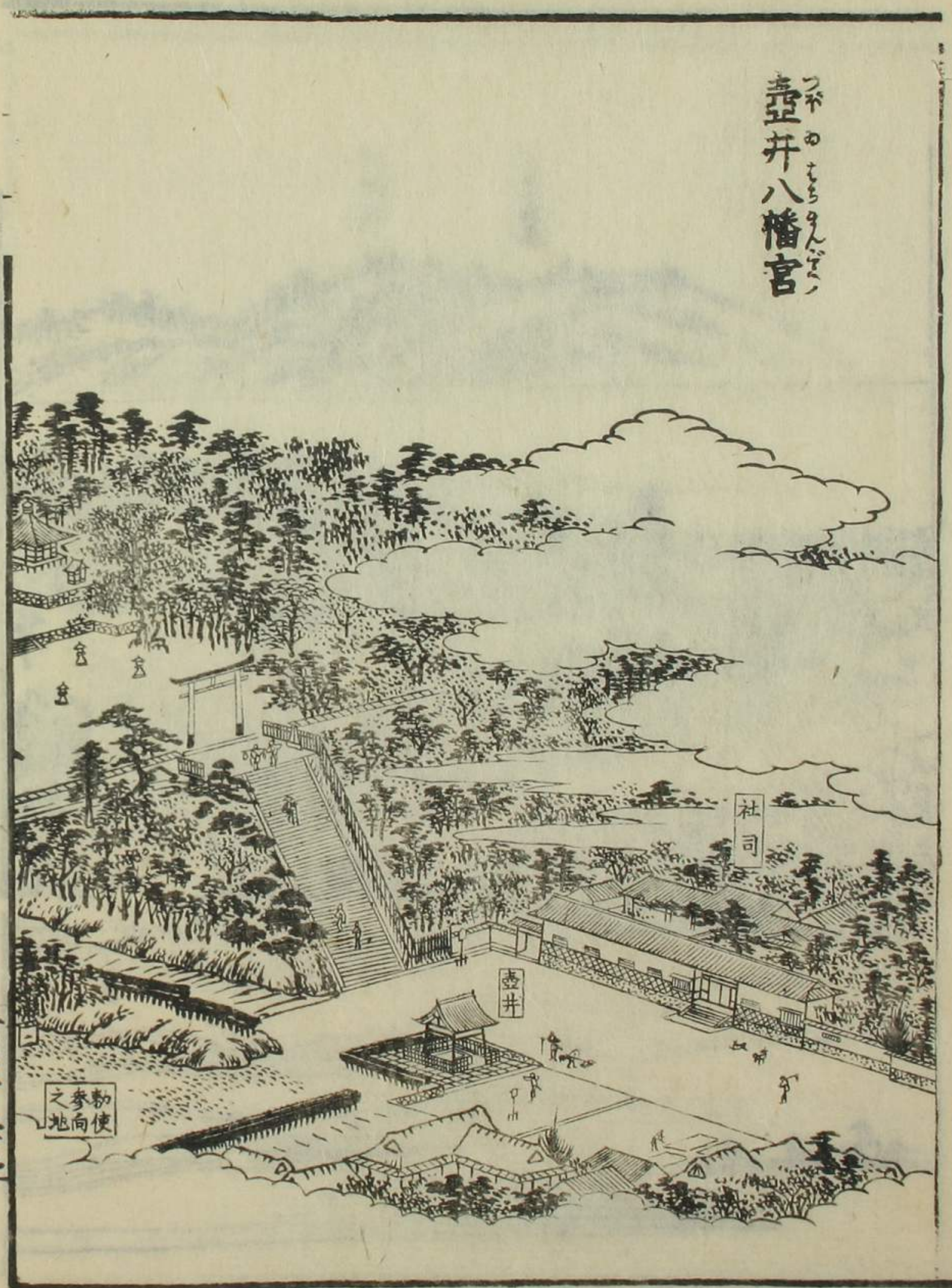
本社

化輪

御旅所

河三ノ三十三

つねのまろやんざん  
壺井八幡宮



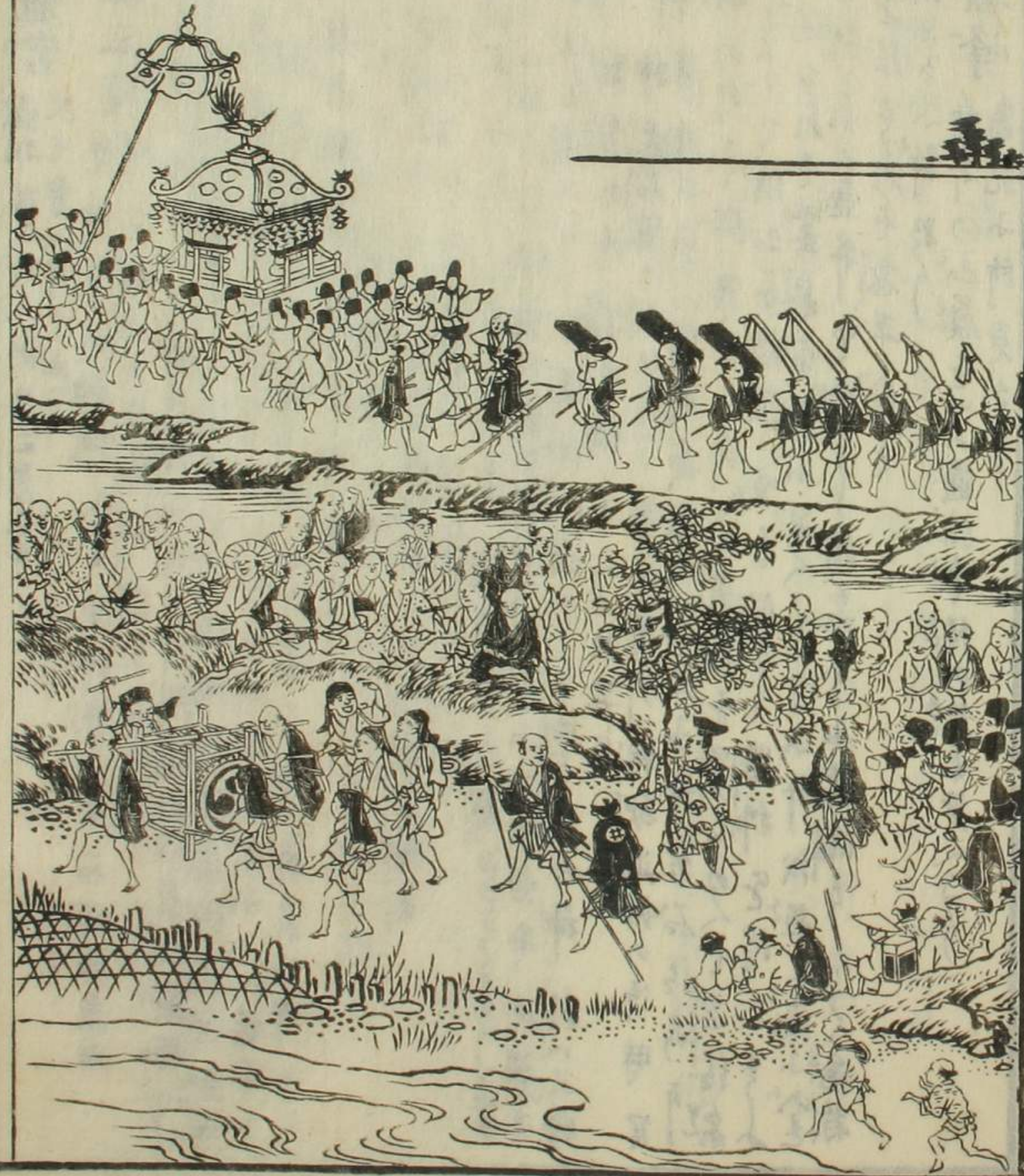
社司

壺井

之参勅地尚使



壺井つぼい  
例祭れいさい





當社の例系と誕生二日午の刻より神樂三基津旅所（波津あり）  
 初ふの轂猿田彦神八本の鉾三張の弓矢を刀槍金蓋三柄神供の厨  
 櫃供奉の社勢を子樂不棄く歳を不列を亂し其外社家のめんく神樂  
 乙女神人宮仕習前後供養し石川河原の芝生を四阿屋松志門らひ是と  
 津旅所よりてあむわどしなる年によりて洪水あふよりて延享年中より  
 神社の西の方義家公津廟のやうに改りし所原此地と源家三代武將忠  
 居城ありて河内列を任國之故より八幡宮が勸法し三代の墳墓も近隣あり  
 又むりー化輪寺とありは剝ありこれを頼義公奥州征伐の時故身方亡年  
 松退後の為不建られ奉る不慈覺大陣の化あり阿弥陀佛と安んじ後世慶  
 寺を形りて化輪寺救金堂芝かを圃の字を形りぬ御奉るを踐し奉り  
 壺井の什寶と形りぬよきみか一雙の地ありて源家の領と見えたり  
 後世いぬくやかりて麻姑の桑海を見たりと見えたり

石丸山通法寺

通法寺村あり宗旨真言新義  
 和列長谷寺に属す

奉旨阿弥陀佛

觀善勢至の二尊冠輦也  
 長二尺許奉堂ふなき

不動尊

智證大陣也  
 長六尺

十一面觀音

長六尺許  
 他不詳

觀音堂

奉旨千手觀音長二尺五寸許源頼義公感得  
 又ふ子親者令銅佛あり頼義公甲の内小安並の壺を足

鎮守

天照右神八幡  
 奉日をもあふ

上ノ社

梅若山あり杖杖辨天  
 梅若の三尊公あふ

當山法會七月十七日十八日

頼義公魂舎

觀善堂の中

頼信公墳

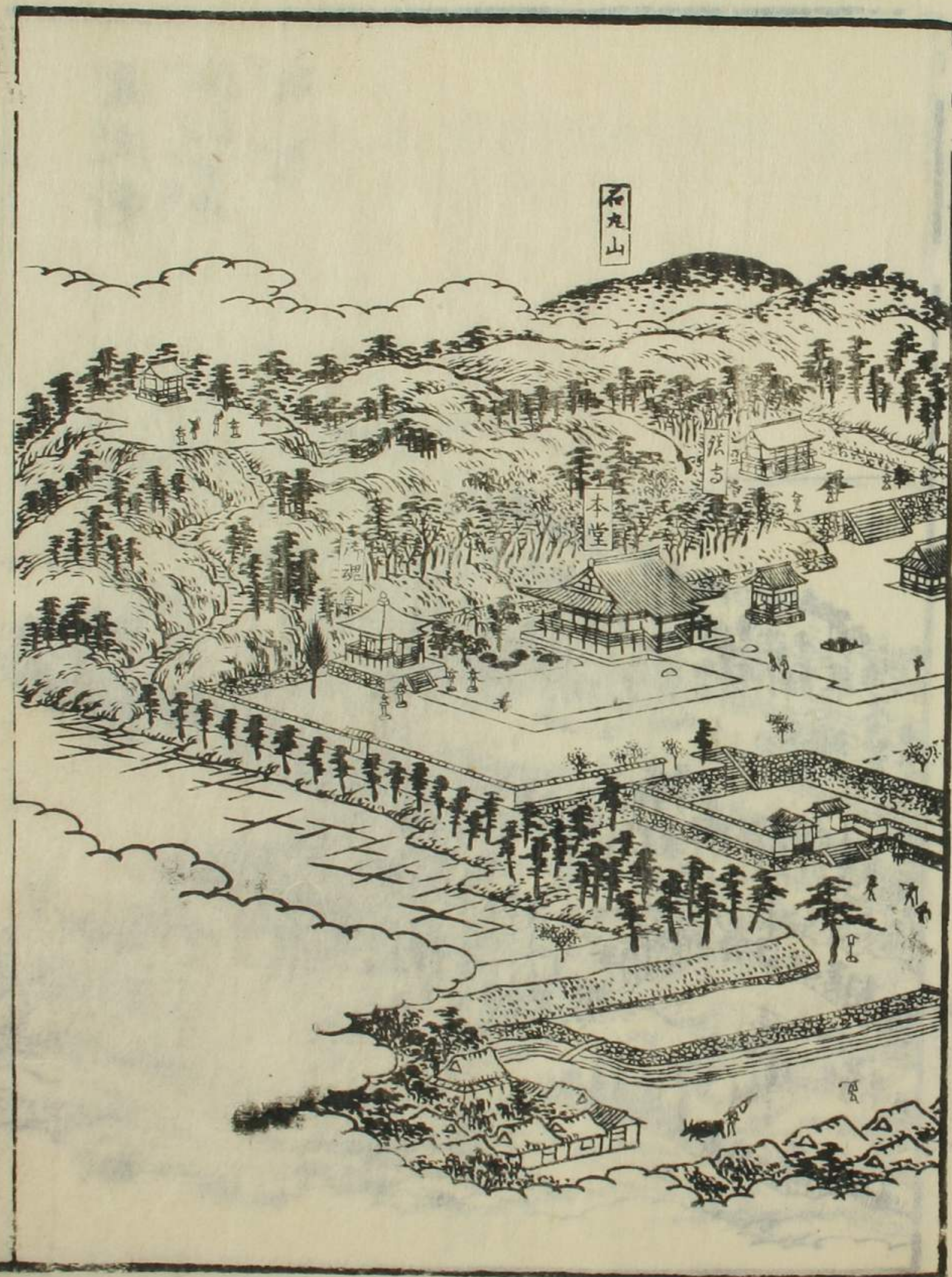
奉堂の巽  
 二所詳あり

義家公墳

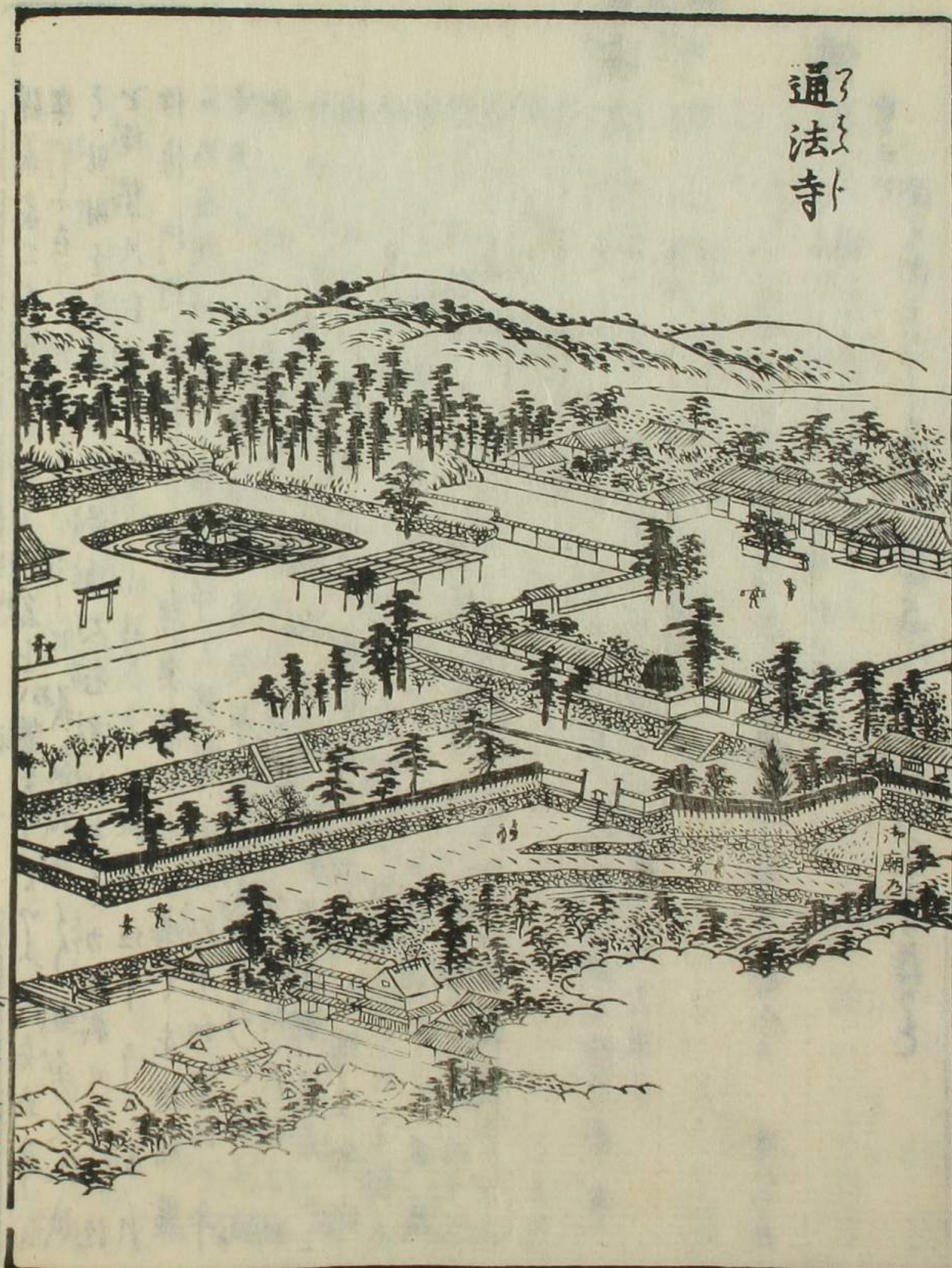
頼信公墳よりを所半  
 奥ふあり

當山と初河内守源頼信公の館舎形り長子頼義公相傳してうふ  
 居徑し終ふ終ふふ此地の東北に仁海上人の舊跡ありて仁海若とよふ  
 ある時其谷より光明赫々して諸人奇異の心ひ公たれ頼義公  
 靈光の原を尋り終ひし大慈悲の靈像傳りまれば則長久に奉  
 九月に感得し終ひく嶮中ふ一字に精舎が建營して通法寺  
 中碑を此所ふ終く八幡を即義家公賀茂次郎新羅

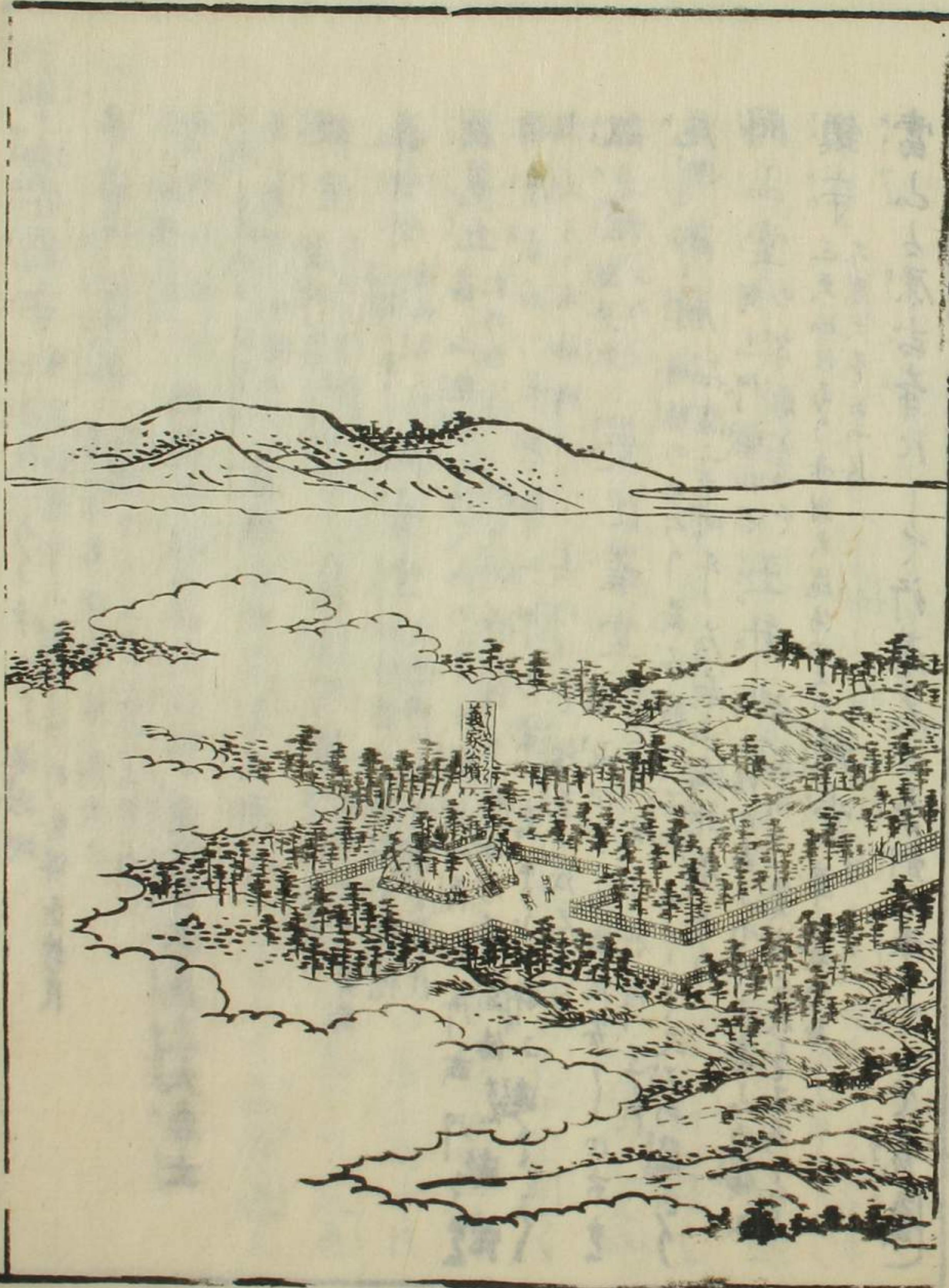




通法寺



河三二七



通法寺  
 源義家將  
 廟墓



河三ノ千八

五 手山安福寺

尾張村あり浄土宗道場也  
洛東新恩寺小庵を常行念佛を修ん

奉尊阿弥陀佛

惠心傍都他座儀長丈六  
瑞龍院殿二品前亞相天蓮社順譽源正大居士

神牌を安ん

尾張大納言光友卿  
尾張大納言光友卿

經堂

寶冠鉢陀を安ん  
龍眼肉樹 境内にあり

壽世堂

山頭あり 行者堂 後引者を聖室と作也  
又令洞の虚空觀を安ん

國見丘

山絶勝の地ありの方と龍波の萬戸所成川を遊  
海人赤石一石摩耶六甲の翠雲より眺ふ遊々

船之松

曼陀羅堂 盛麻は分一の圖安一四言を  
先づり小千新併三片

尾州御廟

彌傳のめぐり委石庭門石燈あり  
又石の羅あり

岡山堂

岡山河横和者 玉井 岡山橋の南あり又嵩山の巖小  
鐘堂 庫裏のあり

鎮守

三天山にあり每財天毘沙門天  
又黒天を安ん

雷山

と原古寺にして行基大士宗創く奉久く荒廢

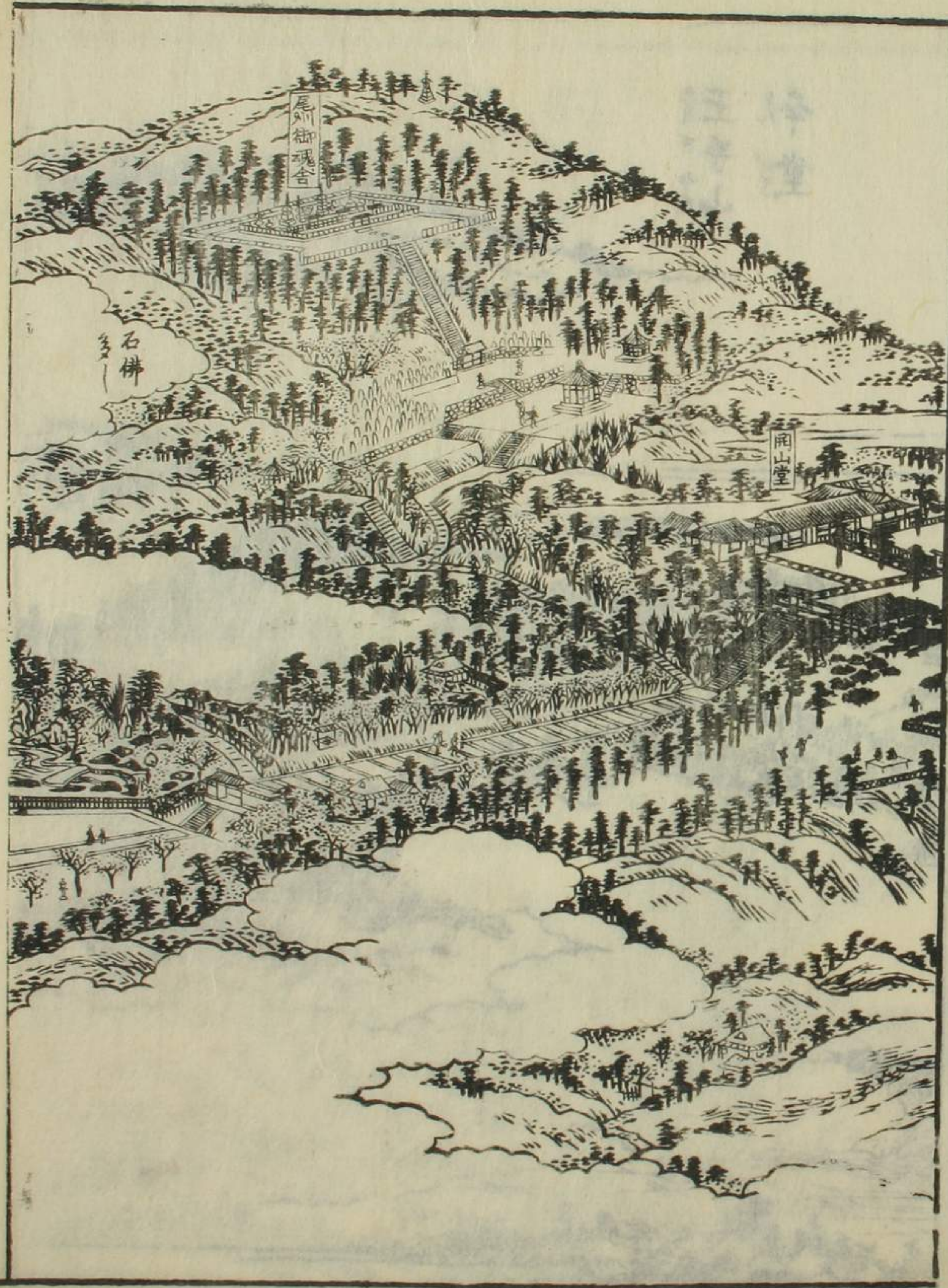
只一字の州庵れありく村老れ守守守く小珂憶和尙也  
つあり 表列の庵ありて里見善勝の婦を城圍を傳つての女あり團左衛門元和元年  
江府室歳上人法融の玄孫にして日教奉公田長く智学一諸國  
行脚の時寛文年中此地に来り微妙の靈感ありて官小許と傳く  
佛屋松關と云ふ宗流の徒今や嵩山岡基と稱す其は尾州亞相光友卿  
和尙を傳依り給ひ佛牙舍利三國無双曼陀羅名號焉寺因若干と副く  
寺附一の岡是堂舎歳重小建管あり當寺を 聖徳太子の法時  
寺院の建方北風俗にして高梁條を柱垣とく此の庵小橋トレ  
春風小柳より萬世不易といふ今の世ふこれを珂憶建堂といふ風色  
を二眼の中にもあり川あり堂あり書あり城あり書あり海面に遊ふ  
見へりて河内一列の名勝也

王手山

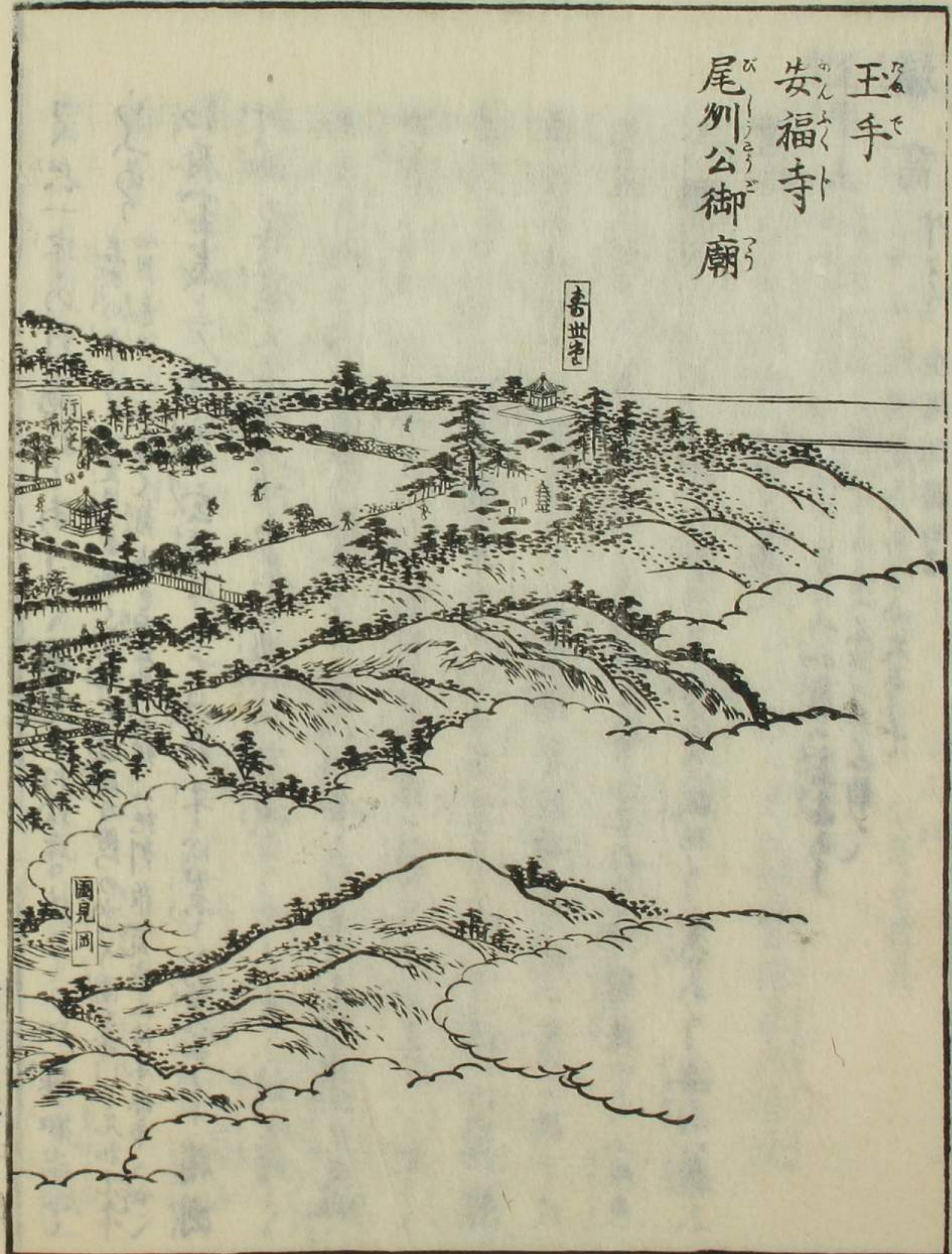
安福寺境内及び東の山とて山頂ふ雲霧あり  
右ふんくより又勝ねとて大木あり丹山鎮あり

壙

中より金環陶器あり



玉手  
安福寺  
尾州公御廟

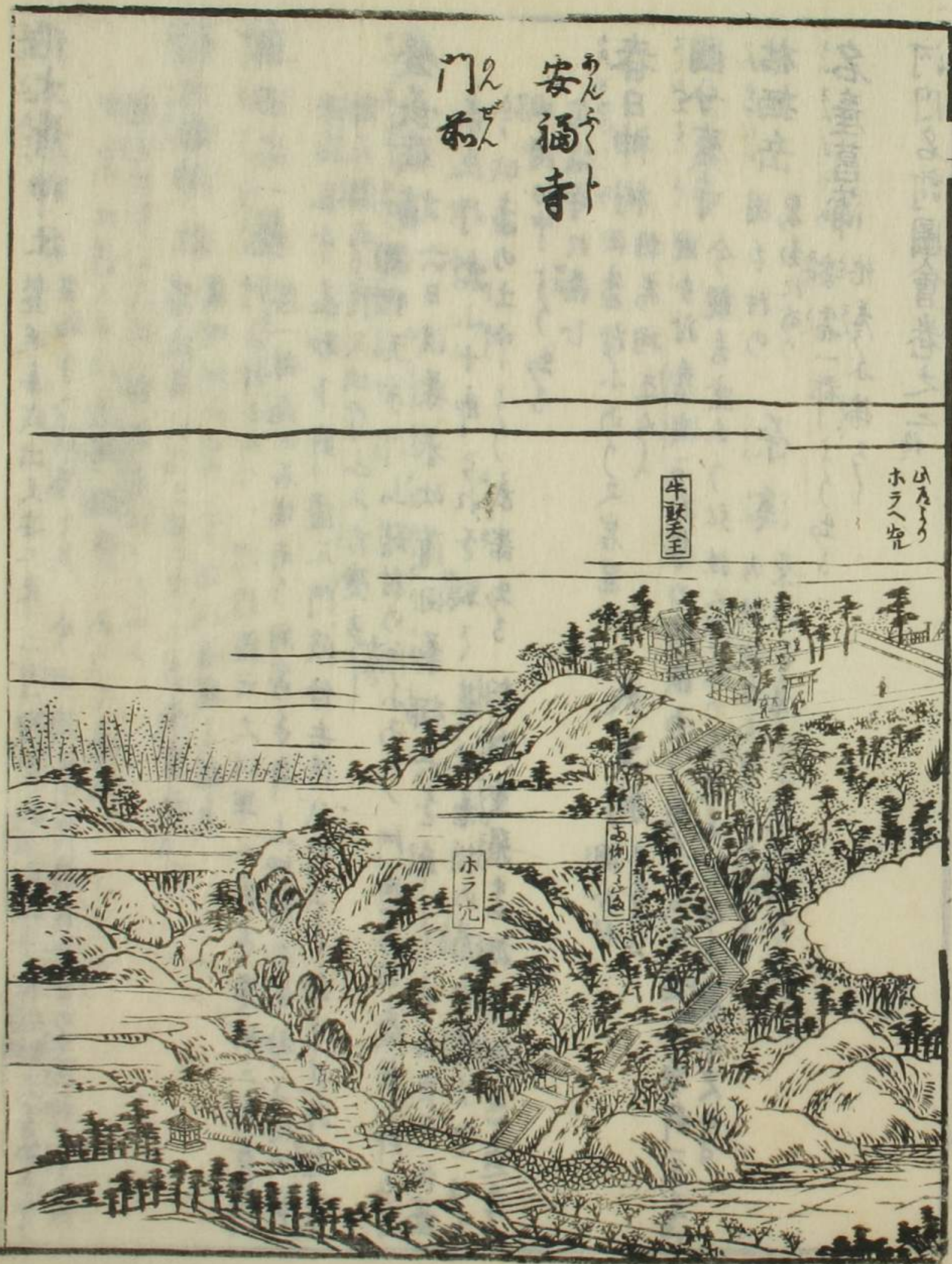


國見岡

河二ノ一



安福寺  
門



牛頭天王

山ノ穴

ホラ穴

山ノ穴

玉手山  
本堂



河三ノ二十一

伯太彦神社

登延喜式出天安二年二月預官社云云玉手村伯太彦天王易名あり  
安福寺の法宗と云 今半頭天王と稱ん玉子の生土神と云

伯太姫神社

登延喜式出天安二年二月預官社云云  
圓明村小あり今向山権現と稱ん

奥田忠一墓

河内縣云大坂軍の寄子奥田三郎在備門  
忠一討死の石塔あり同家子井上四郎兵衛神子四郎

慶長戰場

六日渡孫基次薄田兼相兵を率へて出陣を仙臺  
家臣斥倉小十郎を討つて其首を獲りて中へ

春日神祠

田舎村小あり又岩窟小 天王祠 圓明村  
指岩祠と云

國分廢寺

國分村舊廢小石像の地蔵あり延喜式云國分寺料一寺末に  
今觀音堂あり弘法大師作の正觀音を奉り長を尺二寸

枯栖岳

國分村の 原溪 原山を穿り大和川に入る

名産萱蒲

安福寺一郡より出る 依養小集る

河内名所圖會卷之三終

河三十三尾

